

## (5) 文化・教育

## 基本方針

## 柘野の文化を受け継ぎ育む人づくり

## 【現状】

- ・ 賀茂川をはさんで東に柘野貴船神社、西に川上大神宮が鎮座し、地域の発展とともに歴史を重ねてきました。貴船神社や川上大神宮の祭礼や行事は、今も続く地域の大切な伝統行事です。
- ・ 京都産業大学や総合地球環境学研究所等の文化・研究施設が多く立地しています。
- ・ マラソンや野球等のスポーツが盛んに行われ、柘野(野球)グラウンドは誰でも利用できます。
- ・ 柘野小学校では、田植えから餅づくりまでを通した、食育（伝統的食文化の教育）が行われています。

## 【課題】

- ・ 地域の伝統行事を知る人が減っており、若い世代へ伝えていく必要があります。
- ・ 教育・文化・研究施設と連携したまちづくりの推進が求められています。
- ・ 地域の文化力を高める必要があります。
- ・ 地域に埋もれている豊富な人材の発掘と活用が望まれます。



## 【取組の方向】

- ・ 地域固有の文化を継承し、その担い手を育てます。
- ・ 小中学校と地域の連携を強め、地域ぐるみの教育を推進します。
- ・ 学区民の学びの機会や場を充実します。
- ・ 大学等の研究機関、周辺施設と連携した取組を進めます。
- ・ 誰もが自由に参加できる体制づくりを進めます。



## 【具体的な取組】

## ①郷土をいつくしみ、地域の伝統行事を守り伝える

- ・ 積極的な広報活動による伝統行事への参加拡大
- ・ 次世代の担い手育成
- ・ 郷土史の編さんと、記録の作成
- ・ 地域文化研究会議、文化振興会などの推進組織づくり



## ②大学や研究機関と連携した文化的なまちづくりの推進

- ・ 研究機関との連携による、研究成果の地域への還元
- ・ 大学・学生と地域との交流の推進
- ・ スポーツ施設の活用による市民スポーツゾーンの形成
- ・ 陸上、吹奏楽に代表される、保育園から大学まで連続性を持った文化教育の推進

## ③生涯学習の推進

- ・ 学区民の学びの機会や発表の機会の充実
- ・ 気軽に使える施設等の場の確保
- ・ サークル活動の育成・支援
- ・ 誰もが参加しやすい集会スペースの充実

## ④小・中学校における教育への参画

- ・ 柘野小学校運営協議会の取組む活動への参画
- ・ 西賀茂中学校運営協議会の取組む活動への参画
- ・ 地域住民の学校教育への参加の充実





## (6) コミュニティ

## 基本方針

## 住民一人ひとりが支えあい、輝けるコミュニティづくり

## 【現状】

- ・ 柘野学区は北区内でも唯一人口が増加しています。
- ・ 近年町内会の加入世帯数は横ばい傾向にあり、現在町内会加入率は約60%となっています。
- ・ 背景として、町内会に入らなくても生活に必要な情報はインターネットやテレビなどで十分得られると考えている人や、近所付き合いを煩わしいものとする人が増えていると思われます。
- ・ 町内会に入らない要因として、役員などの役割をやりたくない、町内会費等の負担が大きい、会員の意見や感想を聞く場がない、などが考えられます。



## 【課題】

- ・ 多忙な現役世代が多く、地域のコミュニケーション不足が感じられ、今後コミュニティの衰退が進み、さらに崩壊の懸念があります。
- ・ 町内会の広報がありません。(現状、回覧板程度)
- ・ 各町内別未加入世帯数の実態把握、共同住宅住民の実態把握を行う必要があります。
- ・ 隣組組織の確立と転入者の情報交換および連絡窓口づくりが必要とされています。
- ・ 町内会入会のメリットが少ないと感じられています。
- ・ コミュニティの活動をビジネスに繋げることも必要です。
- ・ ふるさと柘野が一番と言えるようになっていません。
- ・ コミュニティの活性化を推進するための多目的施設がありません。



## 【取組の方向】

- ・ 地域とは人間が生活を営む大切な場であるという意識の共有から、町内会加入率70%以上を目指します。
- ・ 住民一人ひとりが輝いていきいきと生活できる地域を目指して、「ワンランク上のコミュニティづくり」にチャレンジします！

## 【具体的な取組】

## ①学区内広報の推進(情報ネットワークの整備)

- ・ 電子町内会 → 連合会活動のデータベース化、町内会と連合会の情報共有の円滑化
- ・ ホームページ → 広報の電子化、外部者への広報環境づくりによる情報とメリットの共有
- ・ フェイスブック → SNS(ソーシャルネットワークサービス)を活用した仮想町内会におけるコミュニケーション手段の確立
- ・ 広報誌 → 「柘野の絆」による学区内のニュース、お知らせの共有
- ・ 独自キャラクターの作成

## ②町内会加入に関する広報対策

- ・ 町内会加入に関する広告誌の作成・配布
- ・ 家主や管理会社への協力依頼(学生、若い世代へのパイプづくり)
- ・ 転入者向けの勧誘パンフレットの作成

## ③特別会員(仮称)の創設

- ・ 地域、団体、年代、趣味など、興味の集まりから始まる、町内会、連合会活動への参加促進活動
- ・ 既存組織横断型の、各自の興味に合わせたサークル活動等の活性化
- ・ 特別会員(仮称)のあり方の検討

## ④地域課題の解決に向けたビジネスの展開

- ・ 町内会、大学、行政からのサポートを得ながら、地域の皆がプラスになる社会的企業を起業
- ・ 地域の人材活用、雇用の機会増、町内会役員の負担減
- ・ 地域ブランドの創設
- ・ 地域企業との双方向の協力体制づくり
- ・ 高齢者のもつ知識や技能と人的ネットワーク、さらに年金収入を活かした地域づくり
- ・ 就活、婚活の応援

## ⑤学生と地域との繋がりの強化

- ・ Uターンをするならこの町内と思わせる魅力づくり・京都産業大学(学生部、研究部門等)との連携強化
- ・ 産大生の柘野ファン、地域の産大ファンを増やすことによる相互利益享受
- ・ 地域の祭りなどへの学生の参加促進
- ・ スポーツ、文化、芸術を通じた地域交流の促進

## ⑥みんなが集い、語り合い学びあう場づくり

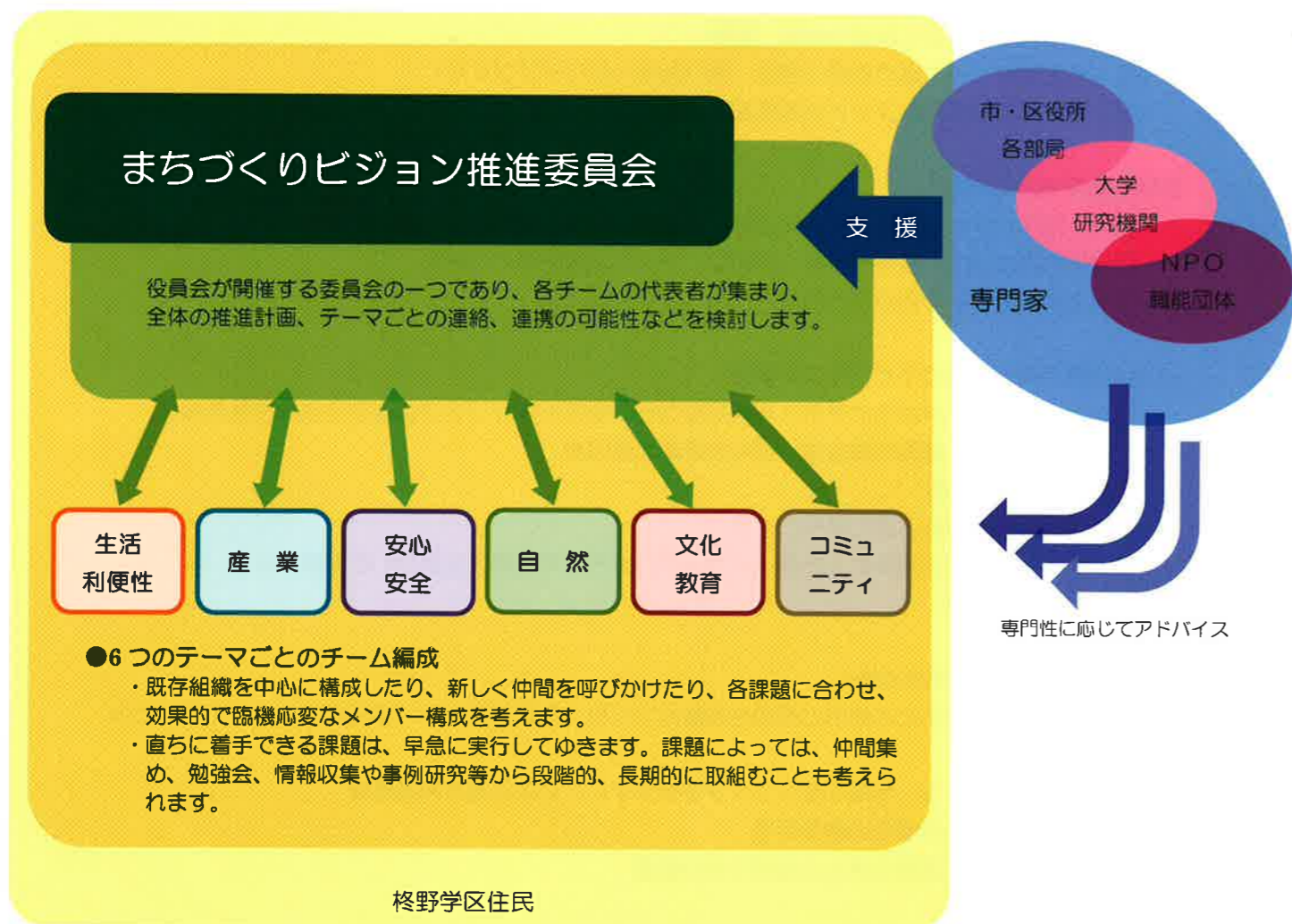
- ・ 柘野自治会館(仮称)の設置など

# 5 ビジョンの推進に向けて

①6つのテーマ毎に編成したチームと、「まちづくりビジョン推進委員会」で進めてゆきます。必要に応じて、大学・NPO・行政など地域内外の関連機関と協力、連携しながら取り組みを進めます。

②テーマごとのチーム編成は、世代の拡がりをもった学区民の参加を目指します。

【まちづくりビジョン推進体制のイメージ】



梶野まちづくりビジョン検討委員会メンバー

地域

氏名	所属
西村 淳暉	梶野社会福祉協議会本部役員
松本 儀一	〃
奥村 健次	〃
清田 正積	〃
松本 忠男	〃

支援専門家

氏名	所属
市川 貢	京都産業大学経営学部教授
篁 正康	NPO法人京都景観フォーラム 理事
小林 明音	〃 事務局長
森川 宏剛	(公財)京都市景観・まちづくりセンター 事業第一課長
大屋 みのり	〃 職員
牧野 忠廣	〃 職員

発行 者：柘野町内会連合会・柘野社会福祉協議会

発行年月：平成25年4月